

工事場所  
静岡市葵区千代地内  
静岡市林業センター



千代みどりの森

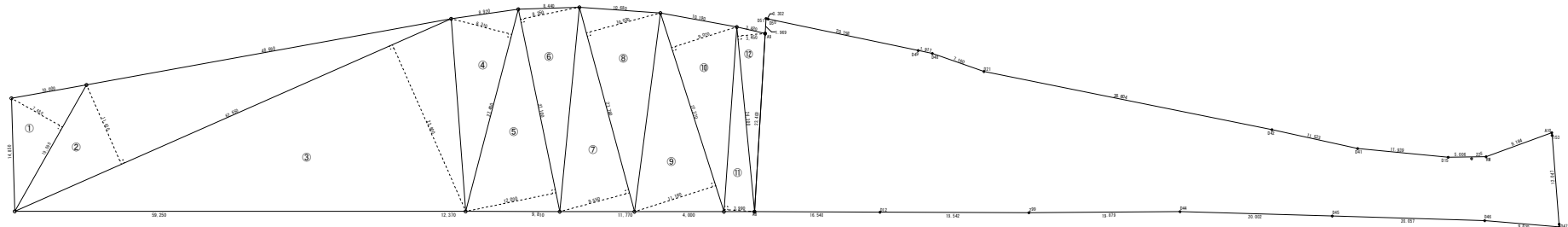
案内図 NonScale

面積表

①	19.09 × 7.68	146.61㎡
②	62.65 × 11.41	714.84㎡
③	62.65 × 23.90	1497.34㎡
④	27.40 × 8.31	227.69㎡
⑤	27.10 × 12.03	326.01㎡
⑥	27.10 × 8.35	226.29㎡
⑦	27.78 × 9.55	265.30㎡
⑧	27.78 × 10.03	278.63㎡
⑨	27.37 × 11.16	305.45㎡
⑩	27.37 × 9.07	248.25㎡
⑪	24.30 × 3.99	96.96㎡
⑫	24.30 × 3.45	83.84㎡
	倍面積	4417.21㎡
	面積	2208.61㎡

測点	Xn	Yn	Xn+1-Xn-1	Yn (Xn+1-Xn-1)
A9	-111735.526	-13310.316	-2.129	28337.662764
A8	-111737.489	-13286.994	14.570	-193591.502580
D12	-111720.956	-13286.505	36.068	-479217.662340
299	-111701.421	-13285.972	39.411	-523613.442492
D44	-111681.545	-13285.626	39.850	-529432.196100
D45	-111661.571	-13284.557	40.001	-531395.564557
D46	-111641.544	-13283.458	29.789	-395700.930362
D47	-111631.782	-13282.386	9.090	-120736.888740
153	-111632.454	-13294.415	-0.692	9199.735180
A10	-111632.474	-13294.780	-8.715	115864.007700
225	-111641.169	-13291.822	-13.701	182111.253222
D15	-111646.175	-13291.889	-16.858	224074.664762
D41	-111658.027	-13293.334	-23.051	306424.642034
D42	-111669.226	-13296.092	-48.845	649447.613740
D21	-111706.872	-13304.640	-44.350	590060.784000
D48	-111713.576	-13307.157	-8.572	114068.949804
D49	-111715.444	-13307.591	-21.488	285953.515408
D50	-111735.360	-13312.218	-19.916	265126.133688
D51	-111735.064	-13312.278	-0.462	6150.272436
			倍面積	3131.047567
			面積	1565.52㎡

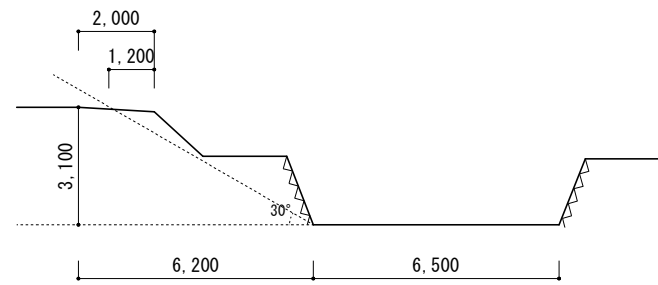
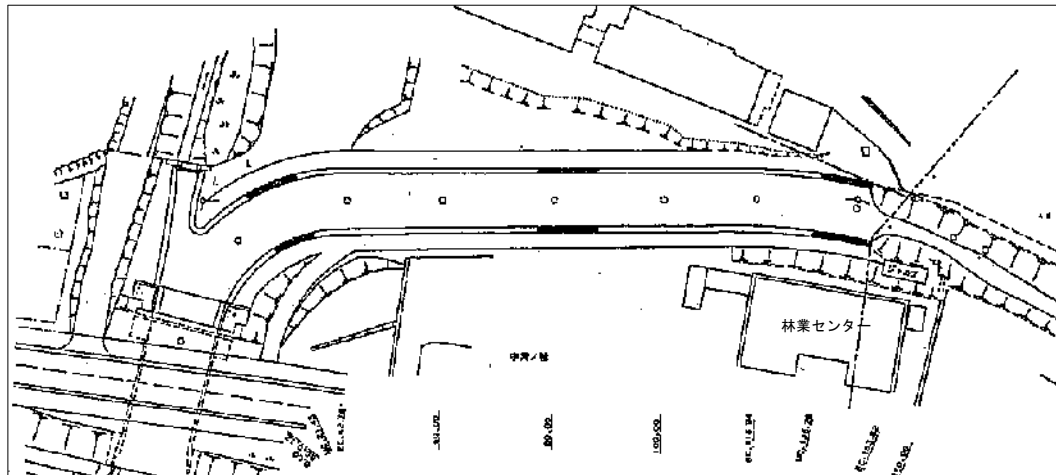
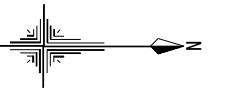
面積 3774.13㎡



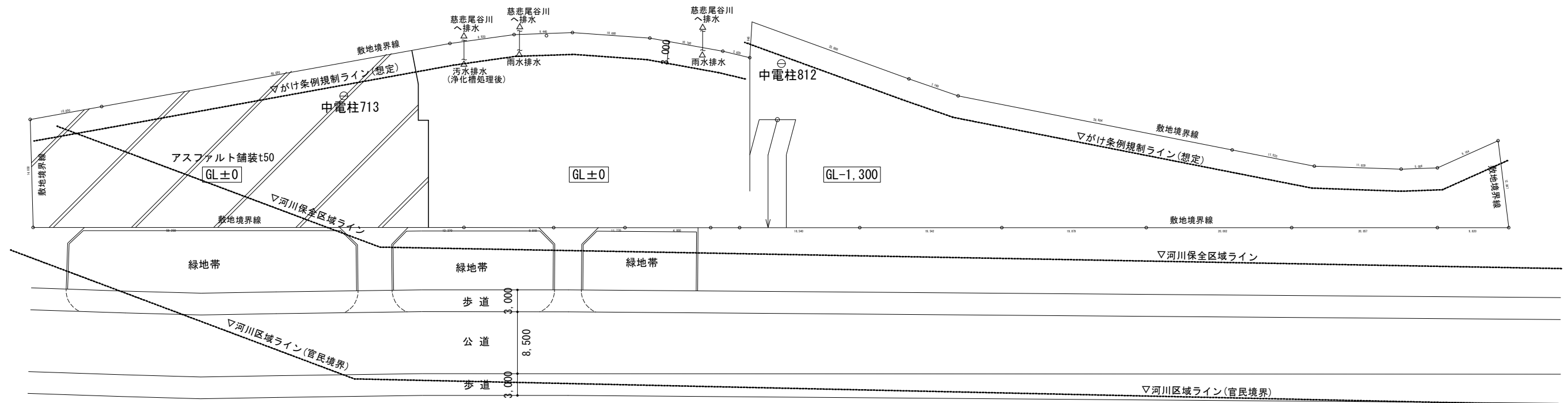
求積図 NonScale

※A～Mについて、仮寸法を記載している。本工事契約後、測量図を貸与する。

【参考図】



慈悲尾谷川参考断面図 1 : 200



105

01-012

55.12

林業センター

農林水産  
土木・衛生

# 報告書

静岡市 林業センター建設費

委託第1号

土屋産業株式会社

0001

昭和 55 年度 委託第 9 号  
( 仮称 ) 静岡市林業センター建設地質調査

報 告 書

昭和 55 年 12 月

沼津市大手町 2-10-10

土屋産業株式会社

代表取締役 土屋 要

電話 沼津 (0559) 63-0590

目 次

1. 調 査 概 要
2. 調 査 内 容
3. 調 査 結 果
4. 調 査 位 置 図
5. 土 質 柱 状 図
6. 現 場 写 真

1. 調 査 概 要

(1) 調 査 名

昭和 55 年度 委託第 9 号

( 仮 称 ) 静 岡 市 林 業 セ ン タ ー 建 設 地 質 調 査

(2) 調 査 場 所

静 岡 市 千 代 地 先

(3) 調 査 目 的

上 記 、 調 査 名 建 設 工 事 に あ た り 、 基 礎 設 計 の 資 料  
と する ため に 、 地 盤 を 構 成 す る 地 層 の 状 態 及 ひ そ  
の 力 学 的 特 性 を 知 る こ と を 目 的 と し た 。

## 2. 調査内容

### (1) 調査方法

ロータリー式ボーリング

### (2) 調査深度

No.1 20.30 m

No.2 20.30 m

延 40.60 m

### (3) 標準貫入試験

JIS A 1219 により行ない、1 m 毎に実施し打撃回数は 50 回を限度とした。

### (4) 使用機械

試錐機 KR-100 型 カノ製

原動機 NS-75 型 プンマー製

ポンプ V-6S 型 カノ製

### (5) 調査期間

昭和 55 年 11 月 22 日 ~ 12 月 13 日

## 3. 調査結果

### (1) 土質の状況

別紙、土質プロフィールを参考に 2 箇所の特徴より観察すると、

表層部は、山灰を主体とする砂灰及び土以外のものを多く混える埋土層になっている。

埋土部以下は、砂灰が厚くタイ積する地盤になり、粒径は  $\phi 5 \sim 70\text{mm}$ 、最大径  $\phi 120\text{mm}$  程度となっており、通称玉石とよばれるものが多く点在している。全体に砂と灰の互層状になっているが、GL -16m 付近よりシルトを混入はさむ状況を示している。

土質プロフィールには標準貫入試験 N 値 ( $N < 30 \leq N$ ) より分類して、(A) 層、(B) 層の 2 層に区分づけしてあり、2 箇所の調査結果を総合した検討を行なうならば、調査地点付近における支持地盤として良好な位置は、(B) 層以下となる。

なお、No.1 地点方向 GL -20m 付近に粘土層が確認されるか、N = 17 と「非常に堅い」コンシステンシーを示しており、無視して考えて差しつかえない地層である。

(2) 支持地盤と基礎工について

支持地盤の位置は、GL -7<sup>m</sup> 前後以下の③層とし、  
ここでは計画される建物の荷重絶対値が特に大で  
ないとするならば、③層以下は完全支持層とみな  
せる。また、荷重絶対値が比較的小さい場合には、  
④層を支持地盤と考えることも可能になる。  
よって、完全支持となる③層以下と、④層を支持  
地盤とする基礎工法について検討してみれば、

③層以下を支持地盤とする場合

支持地盤の位置が、直接基礎とするには深すぎる  
ので、最も一般的な基礎工法とするならば杭基礎  
になるものと予想される。

ここで、PC パイル、 $\phi 350^{\text{mm}}$  を打撃杭とし、GL -10<sup>m</sup>  
付近に打ち止まったと仮定すると、その場合、単  
杭としての軸方向押し込み力を先端抵抗のみで試  
算すれば、おそらく 35 t/本 以上の許容値になる  
ものと推定されるが、ベリング調査における N 値だ  
けで杭の許容値を判断するので、単杭の許容値は  
35 t/本 止まりとするのか、より安全側になる。

GL -1.5<sup>m</sup> 付近に直接基礎とする場合

独立方形基礎  $B = 2^{\text{m}}$ 、根入れ深さ  $D_f = 1.5^{\text{m}}$  と  
仮定し、基礎下部の最も密度条件の悪い  $N = 14$  を  
対象に、テルフ-キの式（修正式）により長期許容支  
持力度（ $q_a$ ）を試算すれば、

$$q_a = 1/3 (\alpha B N_r + \gamma D_f N_q) \quad \text{t/m}^2$$

ここに、 $\alpha = 0.4$

$\gamma, \gamma_s = 1.8 \text{ t/m}^3$  (標準的な値)

$N = 14 \quad \phi = \sqrt{20N} + 15 = 32^\circ$

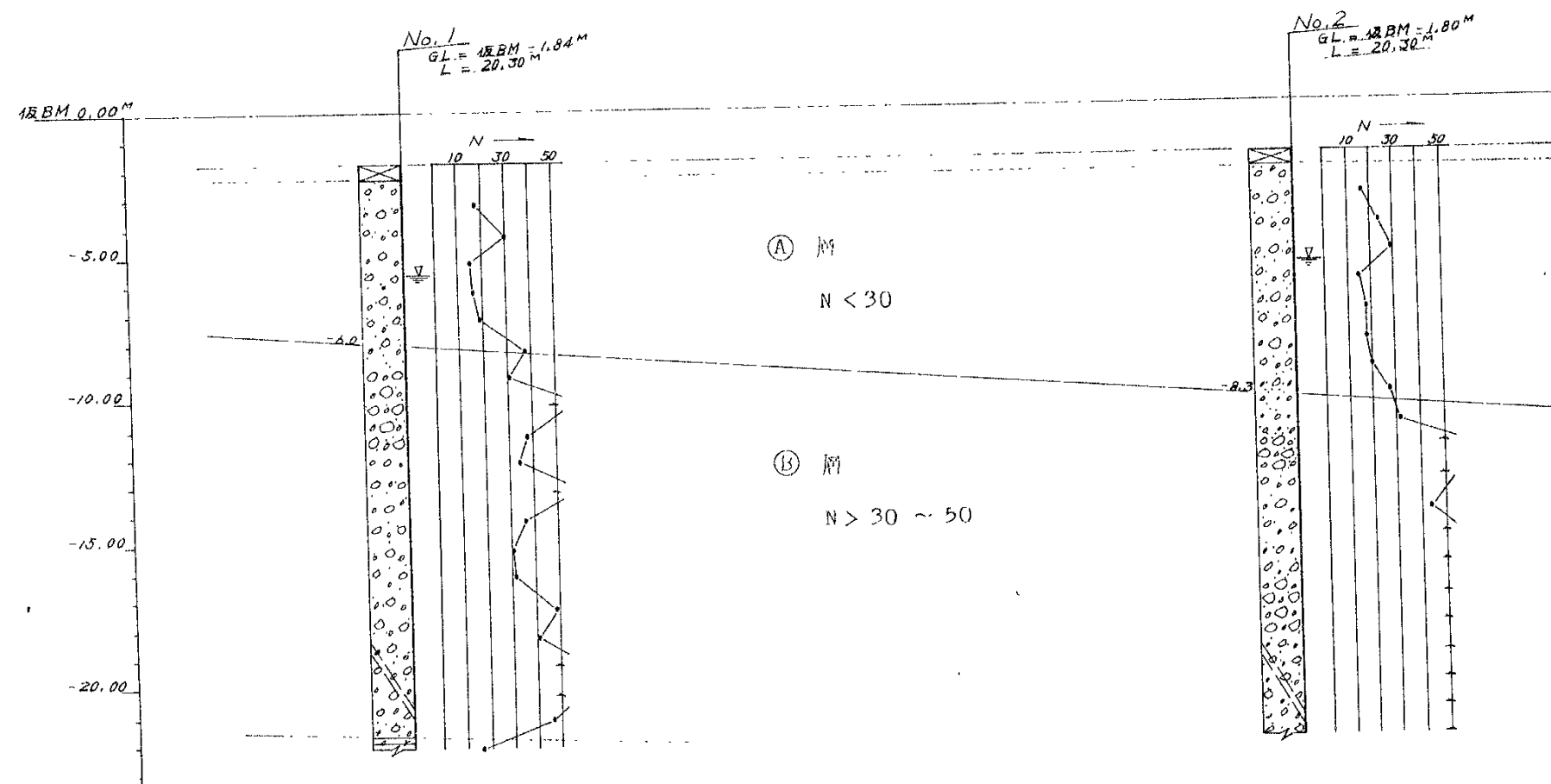
より、 $N_r = 10.6$ 、 $N_q = 14.1$

$$q_a = 17.7 \text{ t/m}^2 \sim 18 \text{ t/m}^2$$

が、試算される。

\* 土質プロファイル

V, H: 1/200

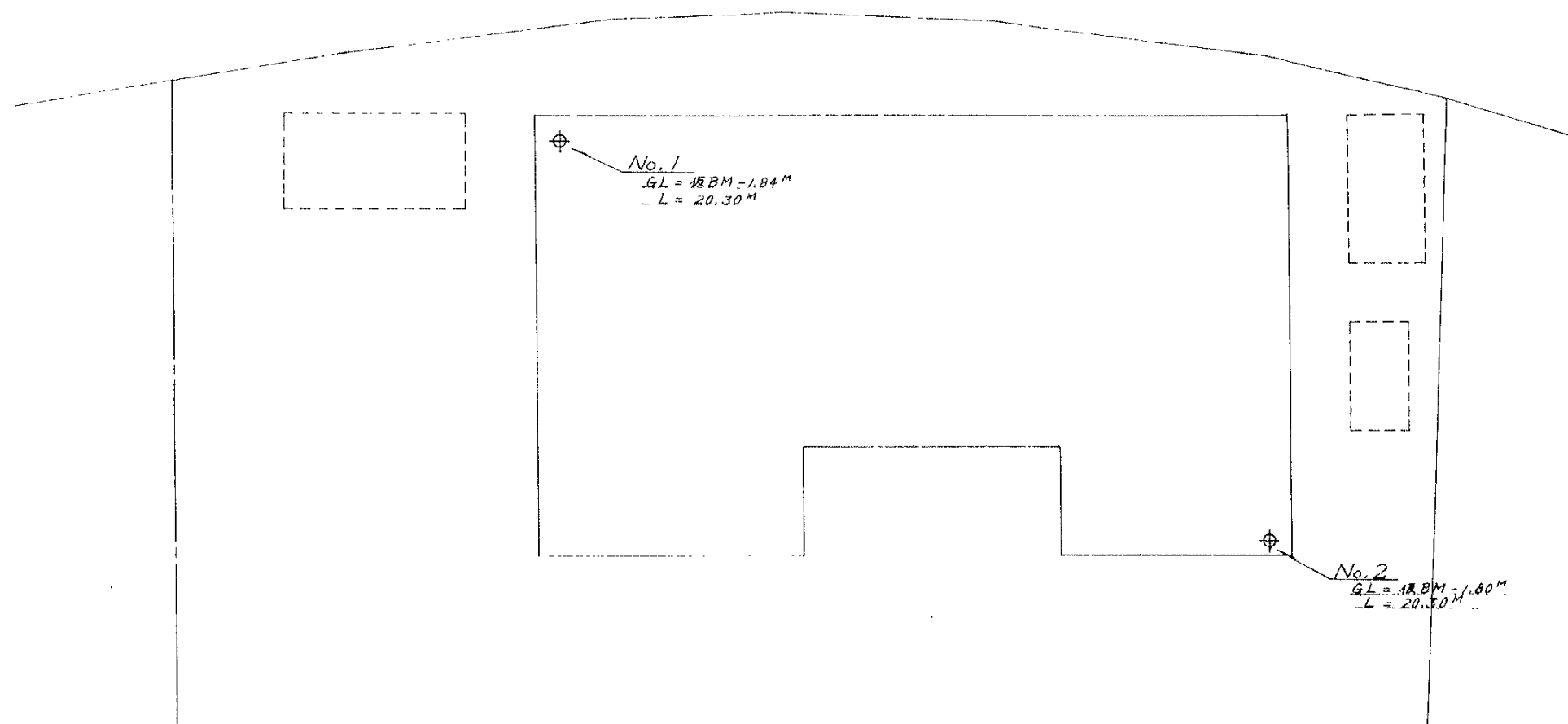




2.3

4. 調査位置図

S = 1/200



仮BM (堤防上コンクリート杭)

昭和55年度

(坂井) 静岡市林業センター建設地調査土質柱状図 (No. / )

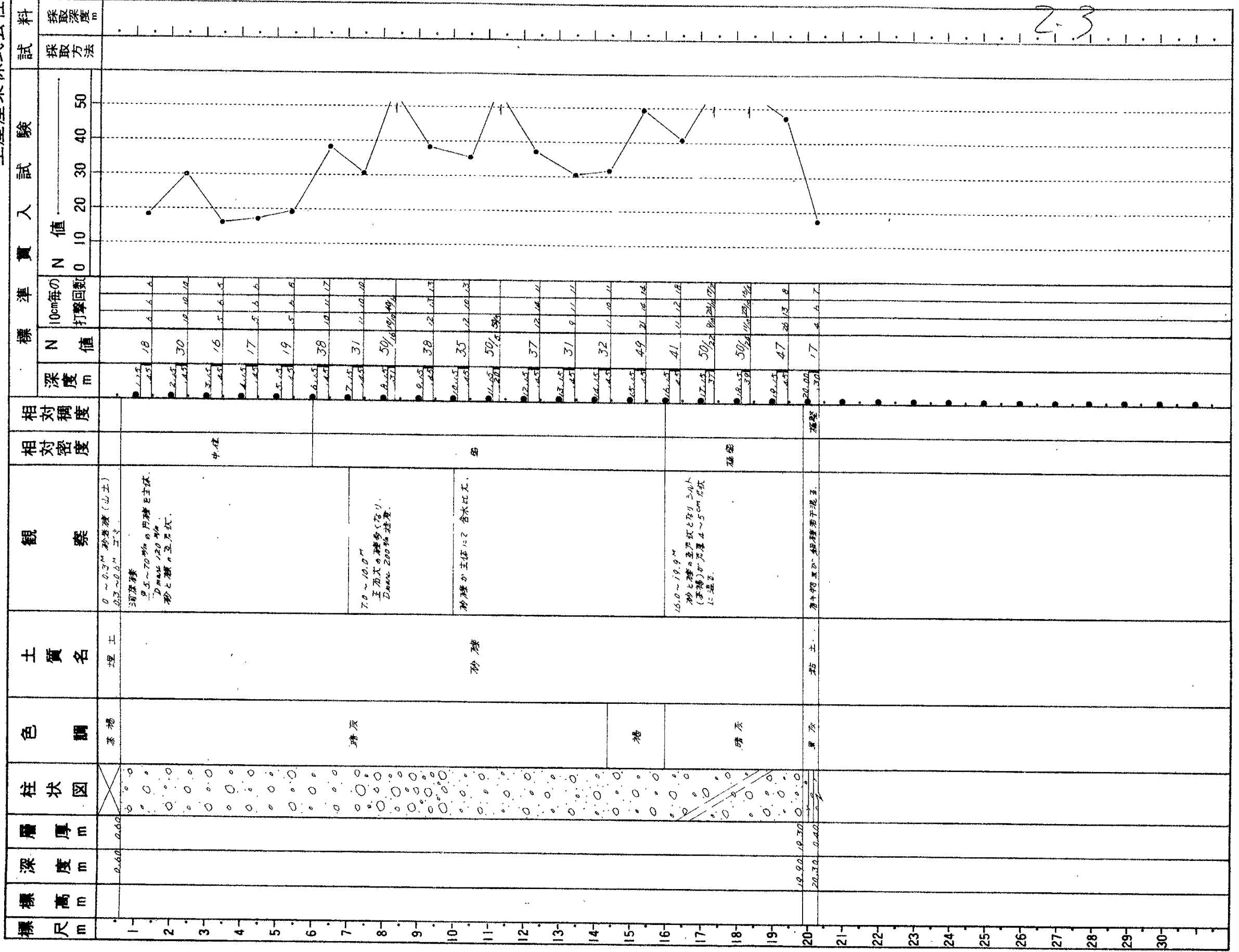
調査地点 静岡市千代

調査年月日 昭和55年 11月 22日 ~ 12月 2日

標高 GL = 488.11M

孔内水位 GL - 3.85M

土屋産業株式会社



静岡県林業センサス-建設地実調査

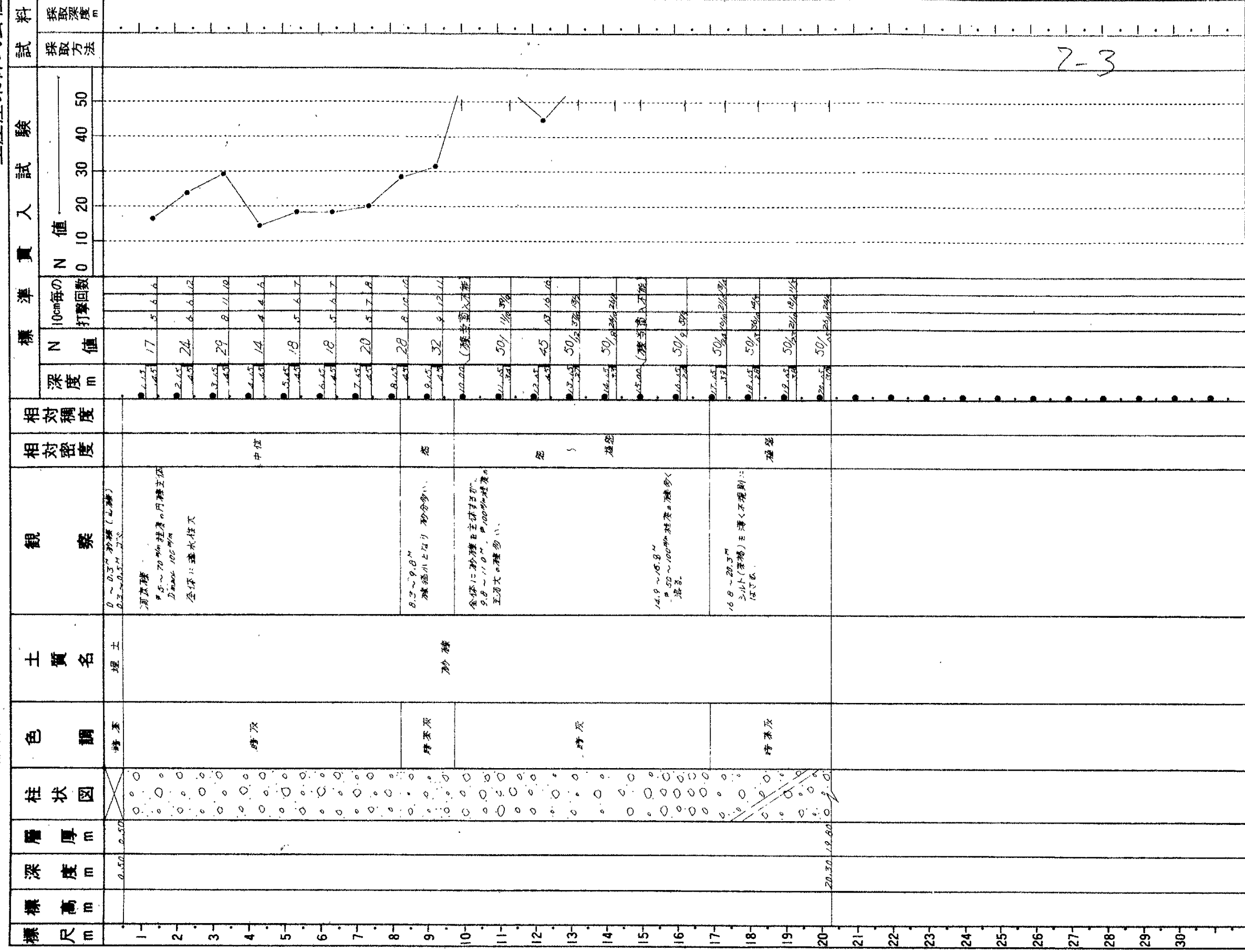
和什拉圖家 哈我 補

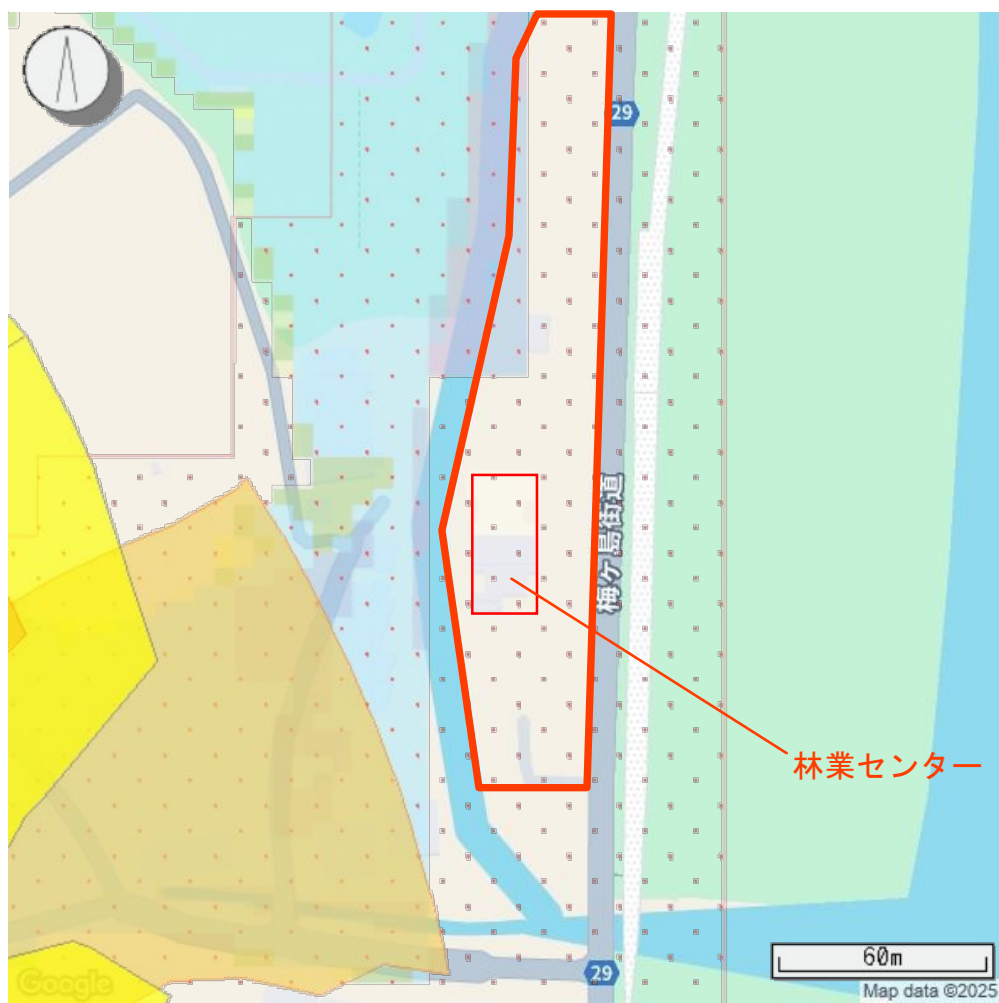
調査年月日 昭和35年12月3日～12月12日

標高  $G.L. = \text{B.B.M.} - 1.80^M$

孔内水位 GL-3.80<sup>m</sup>

十屋産業株式会社





浸水想定		土砂災害に関する情報	
	0.3m未満		土砂災害特別警戒区域 (土石流)
	0.3m以上0.5m未満		土砂災害特別警戒区域 (土石流)
	0.5m以上1.0m未満		土砂災害特別警戒区域 (急傾斜地の崩壊)
	1.0m以上3.0m未満		土砂災害警戒区域 (地すべり)
	3.0m以上5.0m未満		指定区域 砂防三法 急傾斜地崩壊危険区域
	5.0m以上10.0m未満		指定区域 砂防三法 地すべり防止区域 (国土交通省)
家屋倒壊等危険想定区域			指定区域 砂防三法 地すべり防止区域 (国土交通省)
	洪水想定		指定区域 砂防三法 地すべり防止区域 (国土交通省)
	河岸浸食		指定区域 砂防三法 地すべり防止区域 (国土交通省)
	洪水想定・河岸浸食		指定区域 砂防三法 地すべり防止区域 (国土交通省)
高瀬浸水深		避難に関する情報	
	0~50cm		避難所
	50cm~1m		風水害緊急避難場所
	1m~2m		地下道
	2m~3m		地下街
	3m以上		アンダーパス・地下道
高瀬浸水継続時間			浸水地
	12時間未満		河川
	12時間~1日		基準水位観測所
	1日~3日		水害時緊急避難公共駐車場
	3日以上		水害時緊急避難協力駐車場
			要配慮施設

主題地図名：洪水ハザードマップ

地図を利用する場合は、各地図の利用規約をご確認ください。

Copyright © City of Shizuoka All Rights Reserved.